

A. 主な動き

1. 外政

▼ポンタ・ルーマニア首相の来訪

・17日、フィラト首相は、来訪したポンタ・ルーマニア首相と会談し、相互送電システム計画、ヤシ・ウングエニ間パイプライン建設、環境保護、教育及び国境警備問題に関し協議。双方は、エネルギー保障分野における両国間協力に関する共同宣言、教育分野における協力に関する合意及び司法分野における協力に関する議定書に署名。

・同日、ティモフティ大統領は、ポンタ首相と会談し、一連の書類への署名が完了したことを歓迎する旨発言。ポンタ首相は、ルーマニアはモルドバの欧州統合過程の支持を継続する旨発言。また、同日、ルプ最高会議議長は、同首相と会談し、両国間関係の強化及び拡大に関し協議。

▼その他

・18日、フィラト首相は、モルドバの在外公館長会議開会式に出席し、モルドバの最大の優先課題は欧州統合であり、2013年11月の東方パートナーシップ・サミットまでにEUとの査証免除化に向けた行動計画第二段階及びFTA創設交渉の終了を目指す旨発言。

2. 沿ドニエストル

▼ザニエルOSCE事務総長の来訪(16～18日)

・16日、ザニエルOSCE事務総長は、モルドバを訪問し、17日にティモフティ大統領、フィラト首相及びルプ議会議長と、18日にカルポフ国家再統合問題担当副首相及びレアンカ副首相兼外務・欧州統合相とそれぞれ会談。双方は、「5+

2」者会合における交渉の進捗状況及び成果について協議し、沿ドニエストル紛争解決に向けた今後の行動に関し意見交換。ザニエル事務総長は、最近の交渉進展状況を評価し、2013年OSCE議長国としてのウクライナが紛争解決に向け重要な役割を果たす必要性等に言及。モルドバ側は、沿ドニエストル紛争地域「安全地帯」駐留の平和維持部隊の非武装化、国際文民監視団への変更の必要性を強調。これに対し、19日、イグナチエフ・沿ドニエストル「外務次官」(共同管理委員会委員)は、沿ドニエストル平和維持活動におけるロシア軍の役割を高く評価しているとし、平和維持活動のフォーマット変更は断じて受け入れられない旨発言。

・18日、ザニエル事務総長は、ティラスポリを訪問し、シェフチューク「大統領」、シュタンスキ「外相」及びブルラ「最高会議」議長等と会談。双方は、交渉の成果につき確認し、今後の交渉の推移に関し協議。シェフチューク「大統領」は、交渉の目的は信頼の構築及び個々の問題の解決であり、優先課題は経済封鎖の解除、保健、教育、金融及び交通分野における協力である旨発言。ザニエル事務総長は、「5+2」者交渉における肯定的動向及び信頼醸成のための作業部会の活動を高く評価し、OSCEは紛争解決過程を今後も支援する旨発言。

3. 防衛

・16日、国防省は、ウクライナで開催されている多国間合同軍事演習「ラピッド・トライデント2012」に約120人が参加している旨発表。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。
(了)